

企業名：栗本鐵工所

レポート名：KURIMOTO REPORT 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

理解できる。報告書の冒頭には企業理念の概要が、中ごろには企業理念の詳細が記載されており、どのような企業であろうとしているのかが述べられている。内容を要約すると、生活の基礎となる領域のモノづくりを通して社会の役に立つ、高い品質で社会や顧客の信頼に応える、顧客の要望に寄り添う、社員の幸せを追求する、コンプライアンス遵守を徹底する、環境にやさしい生産をする、というものである。人間社会や社員の幸福、環境への配慮などに主眼を置いていて好感を持てる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

理解できる。「価値の源泉」という欄があり、そこにこの企業の競争優位性が詳しく述べられていると考えられる。内容は大きく分けて三つある。1つ目は、100年以上にわたる研究開発とモノづくりにより蓄積された技術力とそれに基づき顧客に最適な解決策を示すことができる提案力である。2つ目は、問題意識を持ち主体的に行動する人材の育成に努めているため、顧客のニーズへの対応力があること。3つ目は、生産設備の新設、拡充・機能強化、更新、そして合理化を継続的に図り、製品品質と生産性を確保していることである。栗本鐵工所は多種多様な製品を生産している。例えば上下水道の要となるパイプなどである。他にも道路や鉄道に関する製品も生産している。ここからわかるように、栗本鐵工所は私たちの日常生活の基盤となる領域に関する製品を生産しており、したがってこの企業は私たちにとって必要不可欠であるといえる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解しがたい。持続性に関する直接的な記述がないため、競争優位性に関する記述から読者がそこに持続性があるか否かを判断する必要がある。個人的な見解としては上記の通りこの企業の生産品は私たちの日常生活に必要な不可欠であるため需要が尽きることがない、技術力の高さに基づく応用力があり様々なニーズに応えられる、といった理由から、この企業の競争優位性にはかなり持続性があると考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

思う。企業理念の一文に「私達はモノづくりを通じて、社員の幸せと人間社会の幸せを目指します」とあるように、この企業は社員の幸せにも配慮しており、実際に統合

報告書にも社員の自己実現のための能力開発を支援するといった記述がある。具体的な教育項目としては、経営幹部に必要とされる組織マネジメント力の強化、社員全員のコンセプチュアルスキル（論理的思考力、問題解決能力）の強化が挙げられている。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

上記のように持続性に関する直接的な記述や、感染症などで変化する社会においてどのように価値を生み出すかなどの、企業の未来に関する記述が少ないように感じた。このような情報は読者が企業を知るうえでかなり重要だと考えるのでそのような記述を増やすべきだと考える。